

## 南アルプス自然保護官事務所 が開設されました。

環境省は山梨、長野、静岡にまたがる南アルプス国立公園を管理する「南アルプス自然保護官事務所」を南アルプス市芦安支所二階に開設し、宮沢泰子自然保護官が二〇〇八年一月一日に着任しました。また同時に静岡市と伊那市にも事務室を開設して自然保護官が定期的に巡回して近年ニホンジカを始めとする野生動物の食圧によると思われる植相の変化やライチョウの生息域の減少等に対して迅速できめ細かな管理が期待できます。

南アルプスは日本最高標高の構造山地、アルプスの景観、花崗岩の大断層崖、圏谷等の氷河地形、貴重で多様な動植物群等の価値が評価され、昭和三十九年六月に知床、白山とともに国立公園に指定されました。

当時は厚生省の管轄で、昭和四十一年四月に初代レンジャー瀬田信哉氏（前国立公園協会理事長）が派遣され、山梨県庁にデスクを置いて、シーズン中は甲府にも帰らず各山小屋を拠点として現場で精力的に自然保護や登山者指導に当たっていました。しかし僅か一年三ヶ月で中部山岳国立公園管理員として富山に赴任して行かれて以来、南アルプスの自

然保護官は富士五湖自然保護官が併任で業務に当たっていました。このたび宮沢自然保護官が四十年ぶり南アルプス専任の自然保護官として着任したことにより、長年の念願が叶った地元では、南アルプスの環境保全や世界自然遺産登録推進に向けて大きな期待を寄せています。



芦安ファンクラブ 塩沢(久)記

## 南アルプス市 ふるさとづくり協議会の動き

会長 小野 隆

最近、農工商連携という取り組みが注目されています。

ここ南アルプス市でも、商工会が地元農家やNPOと協働して取り組んだ南アルプスフルーツプロジェクトが農工商連携88選に選ばれるなど、これからのまちづくりの手法として年々関心が高まっています。そんな中、今年度より農林水産省の新規事業として、ふるさと地域力発掘支援事業が始まりました。この事業は、地域住民やNPO・企業などが新たに組織した協議会単位でふるさと作りを行う計画を立案、その内容を5年間支援する事業です。今回南アルプス市でも、芦安ファンクラブをはじめ、様々な団体が集まって、ふるさと作り計画を立案しています。今回南アルプスふるさと作り計画の目標の一つとして、子どもふるさと体験受け入れ事業を考えています。それは「ふるさと夢学校」という、全国の小学生が、農山村での宿泊体験を行う文部科学省のプロジェクトへ参加し、南アルプス地域として受入できるような体制を作ることです。

これらの地域の宝を、それぞれの団体が協力し、ひとつの教育旅行として学校に提案することで、日本中の子どもたちがこの地を訪れる新しい事業形態を作りたいと思っています。その実現のため、来年度は、まず市内小学生を対象に、山の活動体験・歴史体験・農業体験を年間を通じ学んでもらう活動を始めます。

この活動には二つの大きな意味があります。南アルプス市は合併によってできた新しいまちですから、南アルプスの山々を眺めたことのない子どもたちもたくさんいます。この子らに、自分のふるさとを伝えていく事は大切なことです。

もう一つは、ふるさとを誇りに思うには、まず自分たちがふるさとを知らなければなりません。外からのお客様を招く前に、ここに住む子どもたちに伝え、また伝え方を自分たちが学んでいくことで、南アルプスをガイドする質を上げていきたいと思っています。また、その仕組みを整備することで、みなさんが、ふるさとの伝え手としてきちんと対価を受け取りながら活動できる事も必要だと思っています。

様々な困難はあるかと思いますが、みなさんにもこの活動へのご協力をお願いすると共に、いろいろな意見を寄せていただきたいと思います。